



自然観察

No. 87
2008
6月

ロゴマークをクリックすると当会のホームページへジャンプします。

目次

・ 2008年度総会終わる 2007年度決算報告・監査報告	2
・ 2008年度予算	3
・ 会計からのお願い	3
・ 2008年講演会レポート	4
・ シリーズ 小さなカタクリの大きな秘密 第四回 資源配分特性	8
・ 研修報告 2008年度地方研修会Ⅰ報告	10
・ フィールドニュース 帯広市 札幌市	11
・ ウォッチングレポート	12
・ 参加者の声	14
・ 第19回 滝野の自然に親しむ集いのお知らせ	14
・ ウォッチングプラン	15
・ 事務局だより	16
・ 2008年度・2009年度理事・監事名簿	16
・ 緊急連絡先他	16



サワシバ

2007/6/4 北見市

2008年度総会終わる

2008年度北海道自然観察協議会総会は4月12日(土)に札幌市環境プラザ研修室で開催されました。総会では新年度の事業計画・予算の決定、2008～9年度理事が選出されました。引き続き講演会が行われました。講師は北海道開拓記念館学芸員 堀繁久氏、演題は「虫の目で見える北海道」でした。会場からあふれるほどの聴衆でした。子どもも沢山来ていました。年度末で確定した決算報告・監査報告、2008年度予算を掲載します。2007年度事業報告、2008年度事業計画については、会報86号をご参照ください。

2007年度決算報告及び監査報告

2007年度決算報告

収入の部

単位(円)

項目	予算額	決算額	増(+)/減(-)	摘要
前年度繰越	1,033,987	1,033,987	0	
会費	490,000	564,500	74,500	会員400名 (新会員21名)
雑収入	0	1,291	1,291	利子
観察会参加料	90,000	88,012	-1,988	観察会保険料 資料代
合計	1,613,987	1,687,790	73,803	

支出の部

単位(円)

項目	予算額	決算額	増(+)/減(-)	摘要	
事務費	通信費	85,000	56,915	-28,085	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	30,000	23,194	-6,806	用紙 印刷代
	会議費	50,000	39,420	-10,580	理事会、部会会場費
小計	165,000	119,529	-45,471		
会報費	会報郵送費	160,000	127,800	-32,200	会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	210,000	203,110	-6,890	印刷所へ支払い
	ラベル代	4,000	0	-4,000	会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	35,000	26,000	-9,000	封筒(角2、角3)
	原稿謝礼代	0	0	0	
	通信費	18,000	13,150	-4,850	編集部関係の通信費
	消耗品費	5,000	688	-4,312	ゼロテープ 用紙
会場費	0	0	0		
小計	432,000	370,748	-61,252		
活動費	観察会費	90,000	50,030	-39,970	参加者保険料・配布資料・通信費
	総会開催費	25,000	48,620	23,620	会場使用料 講師謝礼
	30周年積立	200,000	200,000	0	
	全道研修費	50,000	0	-50,000	機器使用料 プリンターインク 講師研修会費
	地方研修費	50,000	25,190	-24,810	講師謝礼 会場使用料
	指導員講習会	10,000	37,300	27,300	講師旅費補助
	救命救急講習会	18,000	12,463	-5,537	講師派遣費 会場使用料
	用具費	20,000	14,265	-5,735	観察ボックストリプル テブラー たも網
雑費	10,000	8,390	-1,610	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク	
小計	473,000	396,258	-76,742		
予備費	543,987	0	-543,987		
総計	1,613,987	886,535	-727,452		

収支残高


総収入 1,687,790円 - 総支出 886,535円 = 801,255円(2008年度へ繰り越)

30周年特別会計

2006年度繰越金 260,000円
 2007年度積立金 200,000円
 2008年度へ繰越 460,000円

2008年4月12日

以上の通り決算報告いたします。

会計 畑中 嘉輔 

会計 引地 輝代 

2008年4月12日

上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。

監事 伊達 佐重 

監事 荻田 雄輔 

2 0 0 8 年 度 予 算

収入の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増(+)/減(-)	摘 要
前 年 度 繰 越	1,033,987	801,255	-232,732	
会 費	564,500	550,000	-14,500	会員400名
雑 収 入	1,291	1,000	-291	
観 察 会 参 加 料	88,012	90,000	1,988	観察会保険料・資料代
合 計	1,687,790	1,442,255	-245,535	

支出の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増(+)/減(-)	摘 要	
事務費	通 信 費	56,915	60,000	3,085	切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	23,194	30,000	6,806	用紙 インクトナー 印刷代
	会 議 費	39,420	50,000	10,580	理事会・部会会場費
	小 計	119,529	140,000	20,471	
会 報 費	会 報 郵 送 費	127,800	130,000	2,200	会報4回発行(クロネコメール便)
	印 刷 代	203,110	240,000	36,890	印刷所へ支払い
	ラ ベ ル 代	0	4,000	4,000	
	封 筒 印 刷 代	26,000	30,000	4,000	会報発送用ラベル
	原 稿 謝 礼 代	0	5,000	5,000	
	通 信 費	13,150	15,000	1,850	編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	688	3,000	2,312	ゼロテープ プリンターインク 用紙
	小 計	370,748	427,000	56,252	
活 動 費	観 察 会 費	50,030	90,000	39,970	参加者保険、配布材料、通信費
	総 会 開 催 費	48,620	50,000	1,380	会場使用料 講師謝礼
	全 道 研 修 費	0	50,000	50,000	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地 方 研 修 費	25,190	50,000	24,810	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指 導 員 講 習 会 費	37,300	40,000	2,700	旅費補助を項目変更
	救 命 救 急 講 習 会	12,463	15,000	2,537	講師派遣費 講師駐車代
	用 具 費	14,265	20,000	5,735	
	雑 費	8,390	10,000	1,610	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
	小 計	196,258	325,000	128,742	
30周年積み立て	200,000	200,000	0		
予 備 費	0	350,255	350,255		
総 計	886,535	1,442,255	555,720		

収支残高

総収入 1,442,255円 - 総支出 1,442,255円 = 0円

30周年特別会計	2007年度繰越金	460,000円
	2008年度積立金	200,000円
		660,000円

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

今年度(平成20年度)の会費は今のところおよそ、半数の方が納入されています。まだ納入されていない方はお早めにお問い合わせいたします。

2年以上未納の方へお願い

会報に同封して振込み用紙を送りました。
会費納入のご協力をお願いいたします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。
届けが出されるまで、会費をお支払いしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



虫の目で見る北海道の自然

4月12日(土)総会後の講演会のレポートです。昆虫は子供たちにも人気で、ちびっ子も大勢聞きに来ていました。当日聞くことのできなかった方々に、できるだけ内容を伝えたいと長いレポートになりました。堀講師に目を通していただいております。又、文中使用している図・写真を提供していただきました。

(竹林 正昭 記)

講師 堀 繁久氏プロフィール:

北海道開拓記念館学芸員

- ・1961年、札幌市生まれ。発寒川・五天山・小別沢を縄張りに幼少期を過ごす。学生時代に沖縄に住み着き、亜熱帯を飛び回る。以後、日本の北と南の端をフィールドに、昆虫を求めて飛び回っている。
- ・今、一番興味を持っている昆虫は、地下に暮らすゴミムシと生態のよく分からない糞虫。
- ・好きなものは泡盛と南の島。

主な著書：『沖縄昆虫野外観察図鑑』（共著、沖縄出版）

しれとこライブラリー⑤『知床の昆虫』（共著、北海道新聞社）

『日本産コガネムシ図説①食糞群』（共著、六本脚）

『探そう!! ほっかいどうの虫』（北海道新聞社）など。



はじめに

虫を見ることによって北海道あるいは北海道の自然が判ってくると言うことをお話しします。これから登場する虫のいくつかをタイトルに使っています。オオルリオサムシ、オトシブミの揺籃(ようらん)、ダイコクコガネ、チョウがアサマシジミ、キタキイロネクイハムシと名前を付けたハムシです。

第1章 いなくなった昆虫たち

草原の昆虫が急になくなった

この赤い線なんだか判りますか？釣針みたいでそんなに曲がりくねっていません。これは最近(平成5年)の石狩川です。次に青い線、昔(明治19年)の石狩川です。重ねてみると昔は非常にグネグネ曲がりくねって流れていた川でした。それが何度も改修して直線化され曲がらない川になってしまった。この石狩川、今でも268kmと日本第3位の長さですが、元は今よりも100kmも長い川でした。

この石狩川の下流には、本来広大な湿原が広がっていましたが、現在ではほとんど失われています。豊平川など他の河川でも同様です。蛇行していることが川としては重要なんです。

消えたチョウ

アサマシジミの標本(1916年、札幌石山)は、北海道農業研究センターに残っていたものです。昨年標本調査で見つけました。このチョウは僕が自然観察 87号 (4)

生まれる前に札幌から絶滅して札幌で見たことはありません。

アサマシジミ(昔のイブリシジミ)は、草原性のチョウでナンテンハギを食べています。この二枚の写真は早来で撮影したのですが、この産地も絶滅してしまい、今では見られません。実は新千歳空港の滑走路のところが一番の産地でした。空港の拡張で産地がつぶれ、石狩周辺からは姿を消しました。

アサマシジミの主な道内分布は、札幌千歳苦小牧・留萌深川・網走・十勝・釧路根室周辺でしたが、現在確実に見られるのは、十勝・釧路



根室周辺の2ヶ所になっています。このように草原のチョウが非常に減ってきています。

なぜ草原のチョウが減っているかです。草原は長い年月の間に徐々に森林へ変化する環境です。昔は河が蛇行して土砂が運ばれ裸地ができ、草原になることなどをくり返していました。最近は、土地利用の固定化によって、川を固めたりして草原ができる環境を無くしているのです。草原にいる昆虫だけでなく草原性の鳥や他の生き物も減ってきています。

草原性ではないですが、エゾエノキを食草とするチョウが3種類います。オオムラサキ、テングチョウ、ゴマダラチョウです。テングチョウもかなり昔の標本はあるが最近見られない。ゴマダラチョウは、昔の藻岩山や円山に沢山いたが札幌ではほぼ絶滅に近い状態でここ20年位見た人はいません。消えた理由は全くわかりません。

ゲンゴロウ！見たことありますか？

大きなゲンゴロウと言う名のゲンゴロウは非常に少ないです。札幌では一ヶ所でしか見たことがありませんが、周辺には未だ残っています。都市化するほどいなくなってくる昆虫だと思っています。

ゲンゴロウは結構種類が多く、日本では130種以上います。北海道には去年新しく1種追加されて56種記録されています。その中で実に沢山のゲンゴロウ(18種)がレッドデータブックに載っています。大雪山トムラウシへ許可を取って探しに行きました。雪解け水などで一時的にできる水たまりに高山性のゲンゴロウが3種住んでいました。ゲンゴロウは低地の湿地から山の天辺の池までいるんな環境に住んでいます。

普通、掬い取りには網を使います。雪はねのジョンパーに網を張って使うと、浅いところの虫を掬えます。他に煮干しを掛けたトラップや、灯火採集もします。住むところはいろいろで、水溜まりや池の他に沢とか川の流れる水にいる種類もあります。

野幌で捕れたゲンゴロウ

左からゲンゴロウ、ガムシ、オサムシです。見た目の感じと違いゲンゴロウとオサムシは水と陸の進化で違う形をしているが親戚です。ガムシは系統的には遠いです。



ここから野幌で捕れたゲンゴロウを少しお見せします。コツブゲンゴロウ、ケシゲンゴロウはとて小さく3mm~5mmしかありません。ツブ、ケシ、チビとかつくのは小さなゲンゴロウです。一番良く見るのはヒメゲンゴロウで、何処にでもいます。手のひらが広がるのが雄で狭いのが雌です。オオシマゲンゴロウは野幌(大沢口)で最後に見つけたゲンゴロウで、野幌の記録種が2科21種に増えました。そのほとんどは止水性のゲンゴロウです。

北海道で一番大きいのはゲンゴロウ、小さいのはチビゲンゴロウで、この種はゲンゴロウの目の大きさくらいしかありません。

なぜ、ゲンゴロウがいなくなったか？

人工的に造った小さな交流館の調整池に11種類も記録されています。なぜ、掘ってたった2年でこんなに多くのゲンゴロウが入ってきたのかを考えると、逆にゲンゴロウがいなくなった理由が判ってきます。回りにゲンゴロウの供給地が無くなったこと。平地の水草の多い深みのある池がほとんど無くなったこと。池の周りが固められて蛹になる場所が無くなったこと。最後に結構大事なことを思うがコイのいる池が多くなったこと(コイがいるとゲンゴロウはいなくなります)など。

日本最大の糞虫ダイコクコガネ

日本にはダイコクコガネの仲間が5種、北海道にはそのうちゴホンダイコクコガネ、ダイコクコガネの2種が分布しています。過去の記録はありますが、札幌市内はほぼ絶滅状態です。なぜ減ったかと言うと、牛や馬に使うイベルメクチン(駆虫剤)という、牛の背中に掛けて、皮膚から吸収され体中の寄生虫を落とし、薬自体は糞尿として排出される薬剤の影響が考えられます。その糞を食べたコガネムシ類に羽化率の低下や死亡したと言うデータが出ています。

大昔には、ゾウの糞を食べる大きなムカシナンバンダイコクコガネがいた時代もあります。その後シカの減少に対応して牛や馬の牧場で暮らすようになりました。最近は薬剤の影響を受け見られなくなってきています。今、道内でエゾシカが増えてきて、一部エゾシカの糞で発生を始めているようなので、今後、野生獣の糞に戻って世代をつないでいく可能性はあります。

第2章 昆虫と環境

昆虫の遺体から何が判るか？

タヌキの溜め糞を調べると、何を食べているかが判ります。糞を殺菌して漉して残るのはほとんど昆虫のパーツです。中から甲虫類の雄の交尾器が出てきて、コレを見ると種類が判ります。多くの地域ではオサムシがほとんどです。奥尻島ではオサムシを食べ尽くして、普通あまり食べないヒラタシデムシが多く含まれていました。

昆虫の外骨格は非常に堅くて長い年月残ります。特に硬い甲虫類とカメムシがよく出てきます。この昆虫遺体の研究はナウマン象で有名な野尻湖からスタートしました。野尻湖研究グループから2冊の本が出版されています。ネクイハムシのパーツから種が判るという労作です。

遺跡から出る指標性昆虫から水・植生環境、栽培・農耕環境、汚物、地表環境、気候などが判ると言われています。遺跡からは、植食性(カメムシやコガネムシの仲間、一部ハムシ)、地表性(ゴミムシ、オサムシ)、水性(ゲンゴロウ、ガム

シ、ネクイハムシ)、腐肉性(シテムシ、ハネカクシの仲間、エンマムシ)、食糞性(ダイコクコガネ、オオセンチコガネの仲間)、絶滅昆虫(ミヤマダイコクコガネ、カナブン)などが出ます。時代により昆虫が変わってきています。

湿原の宝石「ネクイハムシ」

遺跡の昆虫は保存状態の良い低湿地にある遺跡から良く出てきます。もっとも良く出るのはネクイハムシです。仲間は日本に二十数種、北海道に11種分布しています。ネクイハムシとは根を食うハムシという意味で幼虫は泥の中に住みおしりの突起で植物の根から空気をもろうという変わった暮らしをしています。その一種スゲハムシはいろんな色が出ます。珍しい種類ではないので初夏の湿原でスゲの花を探すと、良く見つかります。2003年釧路湿原タッコブ沼で雌一個体のみ獲れたのが、日本初記録の「キタキイロネクイハムシ」です。以後の調査でも追加個体が見つかりません。しかし、カヌーで回った湖上でアカメイトトンボに会えました。

オサムシという昆虫

オサムシは、はねが退化して飛べない種類と発達して飛べる種類があること、生態系の中で捕食者として結構重要な位置を占めていること、コップの落とし穴で定量的な調査ができること、環境毎に種類が違い指標性があるだろうと言うことで研究しています。その中の一種、湿地性のアナバネゴミムシは大正15年の札幌と野幌の古い記録がありますが、現在では、何処を探しても石狩低地帯では見つかりませんでした。

北海道、佐渡島、関西のマイマイカブリを比べてみます。まず南に行くほど大きい、はねの先が長く伸びてくる、佐渡の亜種は頭が幅広くなります。

環境毎に違う虫がいる

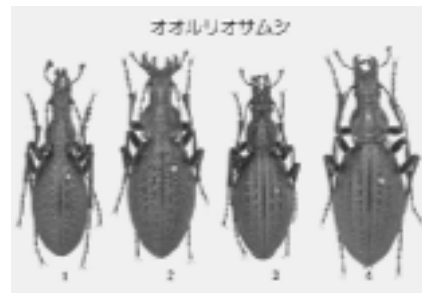
オサムシが飛べる種かそうでないかは、肩を見ると判ります。なで肩のマイマイカブリは飛べません。飛べない種は地域によって色や形が変わってきます。また種毎に好む環境が違い、餌によって身体や頭の形が変わってくることもあります。

住む場所は、山の上から海・川・地中までいろんな所に住んでいます。主な環境は森林・草地・湿原などに暮らすものがあります。主にチョウやガの幼虫・ミミズ・カタツムリ等を食べる捕食者です。中には植物の種子を食べる種や幼虫がカエルに寄生する種も知られています。

北海道で良く見られる種類は、エゾアカガネオサムシ、コブスジアカガネオサムシ、セスジアカガネオサムシ(湿地性)、アオゴミムシ(畑、庭)等です。ツンベルグナガゴミムシは森林で最も多いゴミムシの一つです。ゴミムシではないですが自然観察 87号 (6)

よく見られる地表性甲虫にシテムシの仲間がいます。ヒラタシテムシは飛べません。ちゃんとした林にいます。オオヒラタシテムシは飛ぶ種類で人手の加わった森林や街の周囲にいます。

北海道の固有種であるオオルリオサムシとアイヌキンオサムシの各地の標本を比べて見ましょう。島牧村では大きさ・体型・色も一目見て違います。地域によってはその差が近づいて来て浜益村では同じようになっていきます(収斂)。オオルリオサムシだけを抜き出してみました。



南の方では前ばねのすじが切れてガタガタになる。北側へ行くほどだんだん繋がってきて線になります。



島と森のはなし

島の生物の種数は遠くて小さな島が少なく近くて大きな島では多くなるという理論があります。北海道周辺の島に住むオサムシ・ゴミムシの種数は島の面積の対数と比例の関係にあります。街中にある小さな林も島みたいなもので、この理論が当てはまるのではないかと調査しました。札幌周辺での調査では、藻岩山・真駒内・千歳市美々とも同じような顔ぶれです。ところが北大植物園には他の所にいた飛べないオサムシはいませんでした。都市孤立林は普通の森とは違った組成をしていることが判りました。

次に江別市の例です。色々な大きさ・形の森での調査結果です。確認種数は大きい林・小さい林でほぼ同じでした。ただし、森林性の種数割合は、小さな林ほど少なく、大きな林では多くの種が残っています。離島の結果と同じような関係になり、理論と近い傾向が見られました。

孤立林の歩行性甲虫群集の特徴は、大型でハネが退化している種が多い。大型の飛べないオサムシからいなくなる。森の中心部でしか見られない種がいる。森林の質が変わると中身が変わる。例えば大きな森林の真ん中に道が通ると中心部がなくなりそこにしかない虫は暮らせなくなったりします。孤立林で森林性生態系を維持するため

には大きさが重要です。河畔林はその連結に重要な樹林帯になっています。オサムシを見ると森林の自然度を評価できることが判ってきます。

第3章 北海道の昆虫相

生き物分布の歴史

120万年前北海道はいくつかの島でした。日本と大陸が繋がり日本海は大きな湖だった時代もありました。2万年位前には津軽海峡ができ北海道と大陸は繋がっているが本州とは離れていた時代もあります。氷河期には海面が下がり陸橋を通じて動物の行き来ができます。温暖期には海峡で分断され、残された生き物は、絶滅・存続・進化、そのどれかの道をたどることになります。また繋がりに入ってきたときに、分化の度合によって混じるか混じらないかがおきて、それぞれの島で固有の生物相ができあがってきます。

大雪山にしかないウスバキチョウ、わりとポピュラーなエゾシロチョウ、サッポロフキバッタ、オオルリオサムシなど本州とは違います。飛べないあるいは長距離移動が得意でない昆虫では、本州と違っていることが多いです。

外来種により変わる北海道の昆虫相

2004年に北海道の外来種リスト(ブルーリスト)が公開され、昆虫が89種掲載されています。その後もどんどん増えて来ています。今昆虫で一番問題になっているのはセイヨウオオマルハナバチです。大型で勢力が強く在来の植物やマルハナバチに影響を与えることが心配されています。当初は森の中に入らず中への影響はそれほど無いと考えていましたが、森の中でもぼつぼつと入ってきています。3年前の台風18号の被害で木の倒れた所へセイタカアワダチソウなどの花がはいる、セイヨウオオマルハナバチも入り込んでいると言えます。確認されている市町村ですが、2007年途中までのデータでも道内ほぼ全域に近づいています。

もう一つ沢山増えているのがカブトムシ(国内外来種)です。札幌市郊外の街灯でカブトムシが沢山落ちていたのにクワガタムシが1匹も見られなかったのでチョット不安になりました。

第4章 昆虫を観察するコツ

種類が多く、名前の判らないものが多い

専門家でも判る種類はそこに暮らす昆虫のほんの一部です。私も何でも判ると誤解されているかもしれませんが一割も割らないですから安心してください。種名が正確に判らなくても所属グループや暮らし方が判れば、その昆虫を伝えることができると思います。現在確認されている北海道

の昆虫種数は11,400種ほどですが毎年新しい種類が見つかり、何倍にも増えると思います。北海道の虫を調べるとき、一般向けの本州中心の図鑑には正確な名前が出ていません。2006年に「札幌の昆虫」(木野田君公著)と「探そう!!ほっかいどうの虫」(堀繁久著)が出版され北海道の昆虫も昔に比べると少し判るようになってきたと思います。

昆虫をさがすツボ

目的の虫が動く季節や時間を知らないと出合えません。これはとても大事なことです。虫が食べる・集まる植物を知ることが第一歩です。自然の中だけでなく街灯・側溝などで沢山の虫をみられます。食痕を見つけると近くにいたことが判ります。自分のフィールドをもって何度も観察すると色々判るようになります。あと虫を見つける目線を持つことが大事です。

観察にはフィルムケース・ルーペ、デジタルカメラも非常に役に立ちます。

テーマを決めて観察しよう

小さい子が多いときは、子どもでも探せる・触れるものを対象にすると良いと思います。バッタなんか危なくなくと、数もいて、人気もあり良い対象でしょう。

今回は、オトシブミの揺りかごの話をしていきます。葉っぱを巻く虫は色々いますが 有名なのは、

オトシブミ・チョッキリ・ハマキガです。オトシブミは首が長く1枚の葉を巻き、チョッキリは鼻が長く複数枚の葉を巻くことが多いです。

ハマキガが巻いたやつはほどくと糸がついています。私が不思議に思っているのは、オトシブミの揺りかごは、たった1枚の葉を巻いているのに最後に成虫が出てくるときは外側の葉がそのまま残っているということです。

オトシブミの種類によって巻く植物が決まっています。若葉が伸びきって堅くなる前が、探すタイミングです。オトシブミは、揺籃を地上に落とすのが基本ですが稀に樹状に残すやつがいます。下の環境が悪いときの保険かもしれません。最後に、札幌近郊で地面に落ちている大きな揺籃は2種類です。ヒゲナガオトシブミのは円筒形で翼があって葉はキタコブシです。オトシブミのは、翼が無くカバノキ科の葉を巻きます。今年は、オトシブミの揺りかごを探してみましょう。



第四回 資源配分特性

弘前大学農学生命科学部園芸農学科

本多 和茂

はじめに

前回（第三回で）は、北見市端野町のカタクリの交配様式の特徴を紹介し、これまで報告されてきた本州のカタクリにおける調査結果と異なり端野のカタクリは自家和合性を獲得しており、その頻度は北海道内の他の地域個体群に比べて高いことを示した。植物にとって自身の子孫を残すための重要な営みである種子繁殖を左右する交配様式において大きな特徴を有する端野のカタクリは、一方では、自身が生きてゆくために、どのような適応を行っているのであろうか？

皆さんもご存知のように、カタクリは多回繁殖型の多年草であり、早春に花を咲かせ子孫を残すための種子繁殖を行う一方で、その個体自身も個体群の構成員として何年か生き続けている。今回はこのカタクリ個体が生きてゆくために行なっている適応を、資源配分特性の面から、特に開花期に着目し、これまでの調査結果をもとに報告する。

端野のカタクリたちが、生きていくためのいくつかの工夫（適応）

カタクリに限らず、全ての生物は、生きていくために、それぞれの環境に応じて様々な適応をしている。何年にも亘って生きてゆくカタクリのような多年性の植物の場合、自身が光合成によって得た資源をどのように種子繁殖に振り向けるかは子孫を残してゆくために重要である一方で、その配分をどのようにしてゆくのかは自身の生存にとっても重要な事柄である。種子繁殖を行う際のカタクリの資源配分特性やその重要性については河野（1988）によって示されている。

端野のカタクリについて私たちは前回報告のように、まず交配様式において、高度に自家和合性を獲得している点が特徴的であることを明らかにしており、それも踏まえながら開花個体における資源配分特性についても明らかにしたいと考えた。そう考えた背景には、観察会や当該地の保護・保全に関わっている地元端野の「たんのカタクリと森の会」のメンバーあるいは調査に協力して頂いた方々から、カタクリの開花時期に「端野のカタクリは旭川なんかと比べて小さい気がするんだよな」という言葉を良く耳にしていた。また、実際に端野のカタクリを見ていると確かに「小さい」気がする。そんなことに端を発している。

端野および北海道のカタクリの大きさ

開花個体において、その「大きさ」を、個体そのものの大きさを示す指標として葉面積で表し、また花の大きさを6枚ある花被片の総面積で表すこととして、それぞれの大きさを調査した結果が、表1と2である。

なお、ここで先に示した葉面積は、個体の年齢が分からないカタクリのような多年生の植物の個体サイズを表す指標としてとても重要なものであり、この指標が個体群動態の解明に用いられている。私たちが行なっている個体群動態に関連する調査や試みについては、本シリーズの第二回および最近では、『北海道の自然』第四六号で紹介しているので、興味ある方は参照されたい。

さて、開花期の個体の葉面積についてみると、新十津川と旭川のカタクリは、それぞれ79.1、79.0 cm²と同程度であるのに対し、端野では56.9 cm²と小さい。花の大きさ＝花冠面積についても、葉面積と同様に端野では他の二地域に比べ小さい。開花個体の大きさや花が小さいという印象は、データ的にもどうやら正しいようである。さて、次に開花期にどれだけ「花」に資源を投資しているのか？興味深い資源配分特性について紹介したい。

表1 開花期における葉面積 (cm²) の違い

調査地	葉面積
新十津川	79.1
旭川	79.0
端野	56.9

表2 開花初期における花冠面積 (cm²) の違い

調査地	花冠面積
新十津川	17.0
旭川	17.7
端野	11.4

表3 開花期における個体重 (mg) と花が占める重量比 (%) の違い

調査地	個体重	花重量比
新十津川	1151.8	10.0
旭川	1255.6	8.1
端野	880.9	7.6

加藤芳文 (2003) 北海道におけるカタクリ地域個体群の保全を目的とした繁殖特性の解明 北海道大学大学院修士論文より 本多改訂

端野および北海道のカタクリの開花期における資源配分特性

端野のカタクリは、葉、花ともに小さい傾向があることは先に示した通りであるが、それでは、個体の重さや肝心の花に対する資源の配分はどうなっているのだろうか？この資源配分特性の調査のためには、少々心苦しいのだが、個体を掘り上げてきれいに地下部の土を落とし、乾燥させてその重さを計測することになる。いわばカタクリの（乾燥）体重測定となろうか。写真1にその様子を示す。



写真1：資源配分特性調査のために掘り上げた個体の乾燥後の様子

開花期における個体重と花が占める重量比を表3に示す。

それでは早速、カタクリの体重測定の結果についてまずは見てゆこう。結果は、旭川の個体が最も重く1255.6mgで、新十津川が1151.8mgでこれに次ぎ、端野では880.9mgと最も軽かった。引き続き、全個体重に占める花の割合について見てみると（ここでいう「花」は花という生殖器官全体すなわち6枚の花被片、6本の雄しべおよび雌しべの総重量を指している）、その重量比が最も大きかった新十津川では、10.0%となり、全個体重のちょうど一割を花に配分＝投資しているということになる。旭川では、その比はやや減少し、8.1%、端野では個体重と同様に最も低く7.6%という結果であった。表2で示した花冠面積や今見てきた個体重においては、旭川が最も大きな値を示したのに、花の重量比においては、新十津川の値を下回っている。

このことはすなわち、見かけの大きさと実際に植物がその大きさの器官を作るための資源配分とは、異なった事象であることを示しており、大変に興味深いことである。それはさておき、この資源配分特性の面において、端野のカタクリは他の地域に比べ、花という器官への投資が相対的に少ないことが示唆された。

まとめ

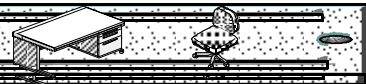
北海道のカタクリは本州のカタクリとは異なる交配様式をもち、さらに、端野のカタクリは、北海道内の他地域ともまた異なる交配様式をもつことは先にも触れたが、今回示したように、個体や花の大きさ、さらには花への資源配分特性についても端野のカタクリは他地域と異なっており、また各地域個体群でそれぞれ独自である。これは他でもなく、それぞれの地域の環境に適応して自身が生きていくための様を示すものであろう。

次に、特に端野について私たちが明らかにしている交配様式と関連づけて考えられることを示す。本来他殖性であるカタクリは、他個体からの花粉を媒介昆虫の訪花によって運んでもらうことが必要で、そのために目立つ大きな花が必要となる。そうした場合、花を大きくし、また花に多くの資源を配分しているものと考えられる。しかし、端野でみられるように、高度に自家和合性を獲得した場合、訪花昆虫へのアピールが相対的に少なくて済み、数少ない受粉（この場合は自家受粉でも問題無い）のチャンスを確実にものにし、子孫である種子を生産することが可能である。端野でみられた花の大きさと花への資源配分の減少はそういった交配様式の特性を反映したものだと考えられないだろうか。

北海道内で東ないし北の分布限界に近い端野のカタクリ個体群は、孤立個体群であるという大きな特徴を有することに加えて、開花期も含めたトータルな自生地での生育環境が他地域に比べ厳しいことが予想される。端野のカタクリ達は、個体群の維持のために、決して恵まれているとはいえない「端野の森」の環境下で自身が生きてゆくためにも独自の適応をしているものと考えられる。このような分布限界に近い、地域個体群は保護・保全に値することはいうまでもないが、この端野のカタクリについて我々が知り得たことはまだその一部にすぎないのではないだろうか？そんな思いで、現在も私たちは端野および北海道内のカタクリ個体群の調査を継続している。まさに「小さなカタクリの大きな秘密」に惹かれ、さらにその秘密を解き明かしてゆくため、今後も端野および北海道のカタクリ個体群の調査を継続していくと同時に、それぞれのカタクリ地域個体群にあったより良い保全を皆さんとともに考えてゆきたいと考えている。

参考文献

- 石川幸男・本多和茂(2008)分布限界近くのカタクリの生態
北海道の自然第四六号(社)北海道自然保護協会
- 河野昭一(1988)Newton special issue 植物の世界第1号
ナチュラルヒストリーへの招待 教育社



2008年度地方研修会 報告

テーマ： イバラトミヨなどの雑魚の生態を通して水環境を考える
 実施日： 2008年5月11日（日）10:00～16:00
 場所： 札幌市 西岡公園とその周辺
 講師： 桑原禎知さん（水中写真家・酪農大非常勤講師）
 参加人数： 9名

昨年8月に続き、札幌市の西岡公園とその周辺域で地方研修会Ⅰを実施しました。前回同様、水生生物の(今回はトンボ、今回は雑魚)生態を観察しながら水環境を考えるという内容です。今から約100年前に作られた貯水ダムによって形成された半人工湿地（西岡湿原）があり、その上流には自然の氾濫原が残されています。その昔北海道の湿地に数多く生息した雑魚の様々な生態が現在でも見られる貴重な生息地になっています。講師の桑原禎知さんは、西岡の魚類の調査・研究を長年にわたり積み重ねておられ、観察ポイントにおいて興味深い雑魚の生態を見せていただき、また西岡公園のかかえる諸問題についての分かりやすい説明によって有意義な研修会になりました。

（大表 章二）

<研修内容>

雑魚の生態観察

上流の氾濫原の小さな池で、イバラトミヨの繁殖期の生態を観察しました。巣を守るオスが他のオスやゴなど近づくと追い払う行動、鱗を使って水を巣の中に送る様子などを観察できました。また巣の形状も近くからよく見ることができました。遮断された池での繁殖は、水の増水時にしか他の池や川に移動できないので、干上がってしまうと全滅の危機に陥るが、逆に天敵などが少ない利点があることなどの説明をうけました。

エゾサンショウウオの産卵にぶつかり窒息してしまったエゾホトケのメスやメスに比べて格段に小さいオス、また卵も観察することができました。

さらに上流部分にはカワシンジュガイが生息しており、講師助手の石井さん(酪農学園大学4年生)が3個体採集して見せてくれました。カワシンジュガイは幼生期にヤマメ(サクラマス)に寄生して生活することから、過去にはヤマメ(サクラマス)が生息していたことが分かります。しかし現在は生息していないので、近い将来西岡からカワシンジュガイが消える可能性が高いことが説明されました。

木道と湿原乾燥化の問題

湿原を横断と縦断する木道が設置されていて、縦断する木道の下は河道になっています。河底が段々深くなって、湿原の水分が集中するようになり、乾燥化が進んでいるそうです。実際、木道展望台からは生長した河畔林が邪魔をして池はあまり見ることができません。これは木道の下は日光が当たらないために植物が生えず、川底の侵食の進行が早まっているのが原因とみられます。現在木道を湿原の縁の高くなったところに移設する可能性も検討しているそうです。実際に現地を見な

ら説明を受けました。

ペットの放流・廃棄の問題

ダム下の親水区間ではペットの放流・廃棄が見られ、中には水槽ごと捨てられた例もあったそうです。皮肉なことに、滑滝状の落差工のおかげで、ダム下に放流された魚の上流への移動を食い止めているとのこと。採ってはいけないということは強調されているが、捨てるのは野放しの状態になっており、今後の課題のひとつと思われます。

外来種の問題

ヌマエビ、ツチガエルなど本来西岡に生息していなかった動物が増えているそうです。

絶滅危惧種指定の問題点

なぜ絶滅危惧種になってしまったかの原因や対応策が見えないこと、絶滅危惧種指定がかえって捕獲圧を高めたり、絶滅危惧種でない生物への関心を低くするなどの結果を生む、移植や人工増殖は保護なのか、など考えなければならない問題が指摘されました。

生息する魚類と特徴

- エゾウグイ ダム湖で越冬して、5月に遡上し産卵する
- ヤチウグイ 絶滅危惧種 詳しいことはほとんど分かっていない
- フクドジョウ 流水性で溪流にも棲む
- マドジョウ 西岡では非常に少ない
- エゾホトケ 8本ひげのギャンプラー
- エゾトミヨ 西岡では1箇所池でしか確認できていない
- ウキゴリ 西岡では多くない
- トウヨシノボリ ダム湖内で繁殖している
- ハナカジカ 西岡では非常に少ない

氾濫原における生息調査

19箇所の調査定点における生息する魚種調査の結果表をもとに、氾濫原における魚類相について研修しました。17種類の魚種の中で、エゾホトケ、ドジョウ、イバラトミヨが多く、多くの地点で確認されており、この3種が蔓延しているような印象があるが、調査時の印象とは異なっていることが説明されました。

＜参加者の感想＞

- ・興味深い現場と講演でした。いい研修会でした。
- ・限られた小さな池の調査で何時間も話すことができるとは驚きました。話はとても興味を持ちました。
- ・イバラトミヨのかなり詳しい生態の話、実物を見ながらしていただき、わかりました。またカワシンジュガイとヤマメの関係もわかり、本当にこの研修会に出席してよかったと思います。

- ・フィールドで外来種に会うとどうしたものかといつも思い悩んでおりますが...
- ・イバラトミヨの巣は飼育水槽では作る過程から観察をしたことがありましたが、フィールドで見たのは初めてで、大感激です。小池沼で成育し、水が出たときに大きな池沼に移動することで、子孫を残すことを知りました。午後の講演もとても興味深い内容でした。絶滅危惧種に指定することの問題には考えさせられました。
- ・西岡水源地は1シーズンで5~6回訪れているところで、別な言い方をすれば私のホームグレンデに近い観察ポイントでもあります。しかし視線を下に向けて水の中、特に道傍の水溜りの中にあのような世界があったことに気づき、驚くとともに新しい世界（観察の視点）が広がったと思っています。今回そのような意味で大きな収穫がありました。

フィールドニュース



Field News

春は自転車に乗って

帯広市 中村 修一

昨年から、約10年ぶりに自転車通勤を再開した。こどもの送迎がなくなったことと、少ない小遣いをやりくりして、なんとか新しいロードレーサーを手に入れることが出来たためである。以前は名古屋と札幌で、中心街のオフィスに通っていた。渋滞の車を追い抜いて町中を走るのはそれなりに爽快だったが、今度は帯広の片田舎から中札内まで、約18キロの道程だ。田園地帯の裏道を通っていくので、すれ違う車はほんの数台に過ぎないから、気にせずのびのびと走れる。道は平坦で走りやすく、時速30km程を維持しながら40分足らずで職場に到着する。まさに自転車通勤には理想的な環境といえよう。

自転車に乗るようになって気候に敏感になった。まずは気温。4月の朝はまだ肌寒く、足先が冷たくなるので買物袋を切って、つま先に巻いて走っている。身体は走っていれば、汗をかかない程度にあったまってくるので、丁度いいくらいだ。もう少し季節が進むと、汗拭きタオルと着替えが欠かせなくなってくるのだが...。日があるのと曇り空では気分も感覚も相当違って来る。風向きも重要だ。ほんの少し向かい風があるだけで、スピードはがくと落ちる。帰り道にこれにあたると、恨みがましく文句の一つも言ってみたくなるが、反対に追い風にあたると、苦もなく40kmをこえるスピードで風に乗って走れてしまう。言葉に表せないくらい楽しい瞬間だ。まわりの風景も車に較べると格段に良く観察できる。季節の移り変わりとともに、道ばたの、足下の草花が顔を覗かせてくれる。遠景だってさえぎる窓枠もなく、スピードが遅い分じっくりとながめることが出来る。さ

まざまな匂いもダイレクトに伝わって来る。

環境に優しいだけでなく、本当に自転車って楽しいのです

自然観察指導員がんばれ

札幌市 田中 洋

昨年秋に講習会を受け指導員1年生となりました。指導員諸先輩の皆様には今後ともご指導の程、よろしく願いいたします。

自然、環境問題などかなり以前からとても興味がありメディア、文献、映画などを参考に自分なりに学習とまでは行きませんがやってきました。

自然が好きで子供時代は野や山、川、海と時間があれば、駆け回っていました。昆虫や小動物が好きです。

昔ほど、生息しているであろう場所に虫や動物を見なくなりました。現在「鳥」を見る団体に所属している事もあり、毎年その場所で見える鳥がなくなり少なくなっていることが心配です。

地球温暖化がすみ気候や温度が劇的に変化しているのを実感します。今自然界で何が起っているのか、これから自然はどうなるのか知りたいのです。そのために何をすべきかを冷静に考えて行きたいのです。

鳥や動物、植物を見ていると環境に順応するもの、自然淘汰されるものと様々います。いわゆる生き残るもの、種が絶滅するものなどが多くいます。生物多様性の観点はこのあたりかなとも感じます。ただこれらの行く末は人間の未来をも大きく左右すると断言できる様な気がします。

自然に目を向け、自然を見つめなおし、自然との共生の可能性を皆さんと一緒に考え、観て行きたいと今痛切に思います。

ウォッチングレポート

豊平区 西岡公園 08年2月10日

天候 晴 掲載紙 読売

<冬の氷上トレッキング>

快晴無風の気持ちの良い天気です。エゾリスの恋の季節か、2頭が追いかっこをしています。枝先から隣の木にジャンプ。見事な演技？に歓声を上げました。ネズミ、テン、キツネの足跡、クマゲラ、アカゲラの食痕、凍裂の樹木などを観察。シジミチョウの卵を探すが見つからず残念！

冬の湿原に立つと素晴らしい開放感が味わえます。立春も過ぎ木々の芽も動き出しているようです。

反省として、参加者の中に持参のカンジキが小さい為、雪を踏み抜く場面が3~4度あり、出発前に体重にあったスノーシューを、お貸しすべきであったと反省しています。

(佐藤 佑一記)

旭川市 嵐山 08年3月23日

天候 晴 掲載紙 道新

<早春の嵐山を訪ねよう>

一週間ほど前の下見では寒かったのですが、この日は天気恵まれ、今年初めての嵐山での観察会を実施いたしました。スノーシューをはくのが初めてという方もおりましたが、そのうちに慣れたようです。

参加者の感想では、良い天気の中、自然の中の良い空気を吸うことができ、シカなどが冬の間この山に来ていた跡に触れたり、説明もゆっくり聞けて良かったということでした。歩いていて、リスが素早い動きで木に登っていくのを見たり、鳥の鳴き声を聞いたり、冬芽の姿を見たり、春の息吹が感じられた観察会でした。

(原部 剛記)

中央区 円山公園 08年2月17日

天候 曇・雪 掲載紙

<冬に耐える植物>

朝まで天気が悪く、開催が危ぶまれましたが、始まるころには雪も一段落。寒い一日でしたが、予定通り開催することが出来ました。

あちこちに出来ているはずの踏み分け道が、雪で埋まり、目的の場所まで新雪を踏んで進むなど、冬ならではの観察会。トチノキ、オニグルミなど冬芽の大きい、特徴的な木を選んで、見て回りました。

(山形 誠一記)

南区 真駒内公園 08年3月16日

天候 快晴 掲載紙 朝日、読売、南区道新販売店

<春の息吹を感じとろう>

子ども・親子特集で、子どものみ4・6年生がグループで参加したのは、担当した観察会では初めてでした。春の陽光に、カツラ・カワヤナギ・オニグルミ・シラカンバ雄花・シナノキ・イヌエンジュ・カシワなどの芽が膨らみ、木々の落とし物からその木を見つけることをしました。

水循環から、雲はどのようにしてできるかペットボトルで雲を作り、上空の雲から降ってきた名残の雪でアイスクリーム作りをしました。南極の氷と家庭の氷を浮かべた比較から、地球温暖化の影響で氷が溶けだしていることに触れました。

(須田 節記)

恵庭市 恵庭公園 08年4月29日

天候 晴 掲載紙 道新、恵庭市広報

<早春の花を観察しよう>

青空の下、全参加者が3班に分かれての観察会となりました。

私の担当した班では、自然全体を見ることを中心に観察を進めました。植物は、キタコブシ、エゾエンゴサク、ニリンソウ、アズマイチゲなどの花々を林や林床の様子と共に観察。野鳥もウグイスやアオジの囀りを聞きながら、ペアで行動中のヤマガラ、ハシブトガラ、アカゲラを目視で観察。巣作りに励むコゲラのペアや、水浴び後に羽づくろいをするシジュウカラの様子を観察する機会にも恵まれました。

参加者の多くが、自然を心から楽しんでいる様子で、時に驚き、更に見入る姿の多さが印象深く残る観察会となりました。

(高橋 美智子記)

北見市 たんのかたくりの森 08年5月2~5日

天候 晴・曇 掲載紙 道新、経済の伝書鳩

<分布東限近くのかたくり>

今年は、少雪で雪解けも早く、暑い日が続きカタクリの開花も早かった。開花数も今までになく多く思えた。最後の5日は子ども観察会として行った。

図書館で説明の後、車でカタクリの森へ。咲き残りのアズマイチゲ、遅れて咲いたキタミフクジュソウの出迎えを受けながら群生地へ。まず、踏まないように足元の小さな単葉や糸のような1年生を見てもらう。

雑木林の間にあるトドマツ林にはカタクリが全くないことを確認してもらった。今年は、エゾヤマザクラやキタコブシも同時に見られ、4日間雨にも遭わず良い観察会でした。

見られた花（期間中開花含む）

カタクリ、アズマイチゲ、キタミフクジュソウ、エゾエンゴサク、ツルネコノメソウ、チシマネコノメソウ、エゾヤマザクラ、キタコブシ、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、カワユエンレイソウ、ヒダカエンレイソウ、ナニワズ、アイヌタチツボスミレ、ミヤマスミレ、キバナノアマナ、ニリンソウ、ヒトリシズカ、フッキソウ

（竹林 正昭記）

小樽市 旭展望台 08年5月3日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日

<スプリングエフェメラルを求めて>

快晴、温かい日和。エゾヒガンザクラの元に集合。旭展望台への道に入ってすぐの道端にエゾタンポポを発見、セイヨウタンポポとの見分け方を確認。

ヒトリシズカ、キクザキイチゲ、エゾエンゴサク、エゾニュウとアマニュウの比較、エンレイソウやオオウバユリの生活史をポイントに観察。

オドリコソウやエゾイラクサは触感を実践。

「茎が四角なんて気がつかなかった！」と驚嘆の声が響いた。

（本間 正一記）

中央区 道庁 植物園 08年5月4日

天候 晴 掲載紙

<園内の早春の足音>

みどりの日の移行に合わせ、初めて5月4日に開催した観察会。

桜の開花が観測史上最速を記録するなど、かつてない速さで季節が進み、早春というよりは初夏を思わせる陽気の中、花の季節を待ちわびた大勢の方が参加してくれました。

道庁前庭ではヤエザクラが満開。植物園内ではエゾノウワミズザクラが見ごろを迎え、ライラックも咲き出すなど、例年とは見所の違う観察会でしたが、和気あいあいとした雰囲気の中、無事に観察会を終えることが出来ました。協力いただいた指導員の皆さんに感謝。

（山形 誠一記）

手稲区 手稲本町市民の森 08年5月10日

天候 曇 掲載紙

<春の手稲山>

例年より2週間位早く春植物が咲き終わり、気温も10度と肌寒く草木も震えているようにみえま

した。

咲いている花は、オオタチツボスミレ、コンロンソウ、レンブクソウ、クルマバツクバネソウ、シラネアオイ、ニリンソウ、イタヤカエデ、オオカメノキなどです。

疑問のあることや分からないことについては、参加者全員で調べる有意義な観察会でした。

（高田 敏文記）

中央区 円山公園 08年5月11日

天候 晴 掲載紙

<春に咲く植物>

エゾエンゴサクやキバナノアマナなどの春植物は既に咲き終わり、新緑の季節を迎えた今年の円山は、例年になく樹木の花が多く見られました。

オニグルミ、サワグルミ、ミズナラ、アカナラ、等々。ちょっと華やかさには欠ける感じですが、普段あまり目にするののない木々の花は、それなりに新鮮な印象を参加者の皆さんに与えてくれたようです。

目立つ花では、ヤマツツジ、ライラック、ヤエザクラも彩りを添えてくれました。

（山形 誠一記）

東区 モエレ沼公園 08年5月18日

天候 快晴 掲載紙

<桜の森とイサム・ノグチ>

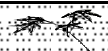
モエレ沼公園をデザインしたイサム・ノグチは、日本人の父とアメリカ人の母から生まれました。戦争でアメリカの強制収容所を経験し、広島島の原爆慰霊碑に「はにわ」のデザインが選ばれたが、アメリカ人であるが故に実現しなかった。しかしその一部は丹下健三氏のデザインに取り入れられたという経歴を読みました。

公園はゴミを270万トン埋め立てて土を盛ったことを感じさせない空間の広がりを見せています。サクラが3千本植栽されています。胴枯れ病・ウイルス病・コブ病・センチュウなどからの防御に管理されたサクラの森を、混合林でより活性化させようとする樹木医の話伺いました。土壌はゴミ埋め立ての影響を将来的にも受けていくと感じました。

モエレ沼から誕生したイトトンボが日向ぼっこをし、スジグロシロチョウの仲間が舞っていました。人々が憩っている笑い顔があります。命の宿りつつある様を目にしなが、消費を糧とした日常生活からの脱却と生物の多様性を支える大切さを問いかけた観察会でした。

さて、参加した人々にはどのように受けとめていただけたのでしょうか。

（須田 節記）



北見市 たんのかたくりの森 (08/ 5/ 2)

北見市 石澤 雅子
たんのかたくりの森の観察会は、毎年申し込みたいと思っていましたが日程が合わず。やっと今年ついに実現、胸躍らせて参加しました。当日は素晴らしい観察日和。カタクリたちはかわいらしい顔をこちらに向けて、大勢で私達を迎えてくれました。参加者はみんな大興奮です。

豊かな森です。雑木林の林床の草花は大地からのエネルギーを吸収して背伸びをし、夏鳥たちも声高らかに恋の歌をうたっています。うっとりしながら歩いていると足元から悲鳴が。クリソウの群落でした(もちろん説明を受けていたにもかかわらずです)。

市街のすぐそばのこのような場所の貴重さに改めて感動しました。

そして、それを支えているのは多くのカタクリを愛する人々の手です。ササを刈り、ゴミを拾い、研究を重ね我が子のように森のことを心配してい

るメンバーの方々のそんなひたむきな気持ちに一番心豊かになった一日でした。

東区 モエレ沼公園 (08/ 5/18)

中央区 村上 正剛
暖かな春の日ざしの下、緑の芝生の上一面に咲いた黄色いたんぽぽのジュータンの上を、集まった方々とんびり歩いて、とても気持ちのいい会でした。

一週間前に東京から札幌へ引っ越してきたばかりのため、北海道の植物について余り知らず、解説の一つ一つがとても為になりました。ほとんどの桜の花は終わってしまっていました。サトザクラだけは満開で、とてもきれいでした。今年は2度、桜を見られてラッキーな年になりました。人工の公園の中で、できるだけ自然な動植物を呼び込もうとする活動についても教えていただき、大変おもしろかったです。楽しいひとときを有難うございました。

第19回 滝野の自然に親しむ集いのお知らせ

例年、好評の『滝野の集い』の日程が下記のように決りました。子供たちやその家族とともに自然のなかで楽しくすごしませんか。参加する指導員が年々少なくなり運営が大変です。多くの指導員の方々のご参加・ご協力をお願いいたします。

日 程：	7月26日(土)～27日(日)
場 所：	滝野自然学園とその周辺
内 容：	せせらぎウォッチング、野外炊飯、ナイトウォーキング、 星空ウォッチング、自然ハイキング他
下 見：	1回目 6月14日(土) 自然学園周辺 2回目 7月 5日(土) 自然ハイキングコース下見 3回目 7月20日(日) 最終打合せと下見
集合場所：	いずれも地下鉄自衛隊前駅の裏口 9:00集合 そこから車に分乗して現地に向かいます。

担 当： 畑中 嘉輔 TEL・Fax 011-581-5439
佐藤 勝 TEL・Fax 011-771-0536

2008年度 観 察 会 ('08年7月13日 ~ '08年9月14日)

※下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
7月13日 (日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場 (厚別中央通沿い) 10:30集合 ~ 13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行 平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を200m徒歩5分)	当日 9:00 ~	佐藤 佑一 011-881-5336
7月13日 (日)	「勇払」観察会 勇払ネイチャーウォーク ウトナイ湖とならぶ貴重な野鳥生息地、勇払原野。ふだんは一般立入できない弁天沼周辺の自然を観察します。	苫小牧市 勇払原野弁天沼 周辺	勇払マリナー駐車場 10:00集合 ~ 15:00解散 (9:30受付開始) 昼食持参、荒天中止 主催：北海道自然観察協議会 日本野鳥の会がけい湖サングチュアリ	JR勇払駅下車徒歩15分 苫小牧駅バスターミナル発の苫小牧市営バス25勇払線「勇払マリナー」下車 連絡先 申し込み:ウトナイ湖サングチュアリ 0144-58-2505 火・水以外の9:00 ~ 17:00		遠山 あづさ kittiwake_@ qpost.plala.or. jp
7/5(金)までに(1)氏名(2)住所(3)連絡手段(電話またはメルアド/当日早朝に連絡の付くもの)、メールまたは電話で申込、定員20名、定員になり次第締め切り。						
7月20日 (日)	「精進川」観察会(親子・子供特集) 川の生き物達	札幌市豊平区 精進川	札幌市豊平区 豊中公園 9:30集合 ~ 12:00解散 川に入るための古い運動靴を用意	地下鉄南北線 中の島駅下車		澤田 久美子 011-891-1962
7月26日 (土)	「オタモイ海岸」観察会 夏のオタモイを歩こう	小樽市 オタモイ海岸	中央バス「オタモイ団地」バス停前 9:00集合 ~ 12:00解散 必要に応じて昼食持参	小樽駅前 中央バス「オタモイ・幸」行き乗車 「オタモイ団地」下車		本間 正一 0134-23-9374
7月27日 (日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00集合 ~ 12:00解散	地下鉄東西線円山公園駅下車		山形 誠一 011-551-5481
7月26日 (土) ~ 7月27日 (日)	第19回滝野の自然に親しむ集い 滝野自然学園親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供特集)	札幌市南区 滝野自然学園	申し込み方法、申し込み締切など詳細は未定 決まり次第、新聞、広報誌などでお知らせします	地下鉄真駒内駅より中央バス「滝野公園」行き「アシリベツの滝」下車徒歩3分 問い合わせは「連絡先」の指導員へ		畑中 嘉輔 011-581-5439
7月27日 (日)	「夏の錦大沼」観察会 真夏の森林浴	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合・9:00 ~ 14:00解散 昼食持参 雨天原則決行・強風日中止	自家用車のみ あれば双眼鏡 ルーペ 図鑑など持参	7/26(土) 9:00 ~ 14:00	佐々木 昌治 0144-67-2022
8月9日 (土)	「夏の手稲山」観察会 山頂までゆったり山歩	札幌市手稲区金山172 山麓駅 ~ 山頂往復	「ロープウェイ山麓駅」前 10:00集合 ~ 16:00解散 昼食、飲み物持参、雨天中止	JRバス「手稲駅」又は地下鉄「宮の沢駅」からJRバス[宮70]、JR手稲駅南口経由「手稲山ロープウェイ山麓駅」下車		高田 敏文 011-684-0989
8月10日 (日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:30集合 ~ 13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行 平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を200m、徒歩5分)	当日 9:00 ~	佐藤 佑一 011-881-5336
8月24日 (日)	季節による植物の変化を楽しもう 夏の嵐山	旭川市嵐山公園 小雨決行	嵐山公園センター駐車場(北邦野草園隣接) 9:30集合 ~ 11:30解散 センター手前の橋の下河川敷(JR旭川駅から北西に約7km 約20分)	「旭川電気軌道バス」西武旭川店A館乗り場14、33番8:08発、3番8:33発 「北邦野草園」下車後バス停傍の坂を登り徒歩約15分	連絡員へ問合せ	原部 剛 080-6092-4347 問合せ19時以降
9月6日 (土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花	千歳市 支笏湖外輪 紋別岳(864m)	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40集合 ~ 15:30解散予定 支笏湖観光ホテル入浴料実費(500円)登山靴不要、昼食持参	JR札幌駅7:52発「千歳行き」8:21千歳駅着千歳駅前中央バス8:50発「支笏湖畔行き」支笏湖湖畔下車 有料駐車場有		谷口 勇五郎 0144-73-8912 宮本 健一 0123-28-4720
9月14日 (日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場 (厚別中央通沿い) 10:30集合 ~ 13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行 平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を200m、徒歩5分)	当日 9:00 ~	佐藤 佑一 011-881-5336

協議会行事他

年月日	テーマ	観察地・開催地	集合場所・時刻	内 容	連絡先
8月23日 (土) ~ 8月24日 (日)	全道研修会 海産動物や海岸地形・地質を題材にした自然観察会の実施に向けて	小樽市 忍路海岸	小樽市忍路町1の460 北海道大学フィールド科学センター 忍路臨海実験所 集合 23日13:00 ~ 24日16:30 解散	詳細・申し込み方法については同封の案内をご覧ください。	大表 章二 0136-57-5610
9月26日 (金)	所沢の高校生と野幌の森を歩こう	野幌森林公園	野幌森林公園 案内時間 12:00 ~ 15:30	修学旅行生を小グループ毎に案内。 多くの会員の参加をお願いします。 詳細については同封の案内をご覧ください	横山 武彦 011-387-4960

各行事の詳細、申込については、同封の案内をご覧ください。

【 事務局だより 】



☆ < 訃報のお知らせ >

岩見沢市の佐藤幸典さんが、'08年4月11日ご逝去されました。

☆ < 観察会追加変更の連絡について >

観察会の変更・追加は、観察部の山形さん・広報の岡田さん・編集部の竹林さん・事務局にお知らせください。

期日が迫っている観察会は広報が間に合わない場合がありますから、ご注意ください。サポートセンターや当会のHPには掲載できます。

☆ 事務局の連絡先が須田さんから武田に変更になりました。連絡先は下記をご確認ください。

☆ < 自然観察指導員講習会について >

2008年自然観察指導員講習会（日本自然保護協会・酪農学園大学共催）は、酪農学園大学（江別市文京台）にて'08年7月11日(金)～13日(日)実施の予定です。

連絡先・問合せ先：日本自然保護協会 TEL 03-3553-4105

☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2～3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。

E-mail hzx01204@nifty.com 写真郵送は編集部の竹林へお願いします。

☆ < 2008年度・2009年度理事・監事 >

2008・2009年度の理事・監事は、4/12日の総会で選出されました。理事の互選で会長以下の職務が決まりました。

氏名	住所	職務	氏名	住所	職務	氏名	住所	職務
後藤 言行	小樽市緑	会長	北本 毅	岩見沢市東山町	理事	根岸 徹	札幌市厚別区	理事
竹林 正昭	北見市端野町	副会長・編集部長	北山 政人	札幌市西区	滝野実行委員長	畑中 嘉輔	札幌市豊平区	事務局・会計
横山 武彦	江別市大麻	副会長	桑原 修	札幌市手稲区	理事	原部 剛	旭川市東光	理事
有田 智彦	苫前町岡野町	理事	佐藤 祐一	札幌市清田区	理事	松本 昇	名寄市東4条	理事
安藤 忍	伊達市西浜町	理事	鈴木 克司	白老郡白老町	理事	安田 秀子	石狩市花川	理事
池田 政明	札幌市北区	理事	須田 節	札幌市東区	理事	山形 誠一	札幌市中央区	観察部長
井上 淑美	留萌市末広町	理事	高田 敏文	札幌市手稲区	理事	山本 牧	旭川市東光	総務
一戸 静夫	函館市山の手	理事	武田 治子	札幌市北区	事務局長	荻田 雄輔	札幌市中央区	監事
大表 章二	磯谷郡蘭越町	研修部長	遠山 あづさ	千歳市花園	理事	伊達 佐重	夕張郡栗山町	監事
岡田 理江子	苫小牧市美園町	広報	豊澤 勝弘	苫小牧市日新町	理事	引地 輝代子	札幌市北区	事務局観察部会計
北道 米雄	札幌市北区	理事	中川 晃	千歳市文京	理事			

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会
-----> 会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
/Fax 011-581-5439

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料
-----> 観察会担当会計 引地 輝代子 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
/Fax 011-773-2170

観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14
011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 大表 章二 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
0136-57-5610

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 武田 治子 札幌市北区北34条西9丁目1-11グランドパレス103号
事故発生等緊急時は /Fax 011-707-5621 E-mail haru_t@nyc.odn.ne.jp

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 北見市端野町3区378-3
HP担当 /Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2008年 6月 15日 / 第87号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発行 **北海道自然観察協議会**
編集 北海道自然観察協議会編集部